

ふじしろ政夫と共に市政を変える会

発行 ふじしろ政夫と共に市政を変える会 ニュース10年7月号

〒273-0122 鎌ヶ谷市東初富5-24-50 TEL&FAX 047-445-9144

E-メール masao.fujishiro@zc.wakwak.com ホームページ <http://e-kamagaya.com/>

ちば県政を市民の手に！

—市民の声がとおる県政を—

変革の時代、新しい経済、新たな社会の仕組み、確かな社会保障が求められています。市民参加の市政・県政が求められます。

千葉県政は、森田知事になってから県民・市民参加がなくなりつつあり、市民へ情報を出さない、市民の声を聞かない、話し合わない状況が続いています。ただあるのは2兆6000億円の借金と知事のパフォーマンスだけ……本当にこれでいいのだろうか。不正経理35億円の抜本的検討もされないで幕引き。体質が変わらないのでしょうか。

6月議会ではまたまた平成21年度繰越手続きを怠った未完工事が発覚（2億6800万円）“不適正な手続”で国庫補助金2000万円位の影響が出て、市民に負担を強いることとなります。

ちば県政を変えなければなりません。県議会も市民の立場、県民の立場にたった議員が少なすぎます。県政を市民の手にとりましょう。

鎌ヶ谷市の6月議会でも多くの議員が一般質問をしました。多くの質問項目が千葉県の事業にかかわり、どう鎌ヶ谷市民の声を議会に、県政にとおしていくかが問われました。

県道船橋我孫子線（船取線）の歩道の整備

安心して歩ける道にするには？……市民の心配・不安を解決するには県に強く要望、要請していかなければな



らないことが明らかになりました。県道千葉・鎌ヶ谷松戸線の歩道整備、木下街道の交通渋滞の解決、国道464号（県が管理）と新京成とのふみ切り（くぬぎ山駅）の安全性を確保するのも「ちば県の維持課」の仕事です。県にどう市民の声を通すかが課題です。

南初富地区の治水対策が提起されましたが、下流の大津川の整備が必要と答弁がありました。下流大津川の整備は千葉県の事業。強く要望していかないと抜本的な治水対策ができない状況です。

二和川の悪臭の問題、東葛地区の重度障がい者施設の建設も、きらり先生の官製ワーキングプア状態を解決する為にも、県の情報公開と市民参加が求められます。

市民のちば県政を

今回の一般質問で、市民の安心安全な街づくりをする為にも、快適な街づくりをする為にも、働く人々の労働条件をよくする為にも、千葉県政のあり様が大きくかわることが明らかになりました。

もっともっと鎌ヶ谷市民の街づくりと市政が、“ちば県政”と結びつかなければならないのではと思われました。

本来県政は、市民の県政でなければなりません。県政を市民の手に！

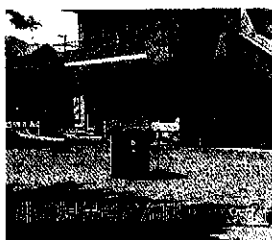
“市民の声がとおる議会を！ 市民の声がとおる県政・市政をつくっていきましょう”！ ふじしろ政夫は皆様と共に全力を尽して頑張ります。



市議会議員
ふじしろ政夫

6月議会で議論されたこと

☆市の職員は両親とも同時に育児休業がとれます。…でも給料はぐっと減ります。（議案第4号）：仕事と育児との両立支援として、これまで両親が同時に育児休業をとれなかったものを、同時にとれるようにしました。無給休業ですが、共済組合等から50%支給あり。収入が50%になってしまって育児が十分にできるのだろうか問題です。又、臨時・非常勤職員には、もともと育児休業がないとのこと。何年も勤めている非正規の保母さんへの“子供を生み育てる支援”がないのは不公



平、不合理です。

☆学校支援地域本部事業（補正予算 433万円）：地域全体で学校教育を支援する体制づくり、西部小、初富小、中部小、四中で実施します。地域コーディネーターを中心に地域市民の力による部活・環境整備・学校行事支援等の活動です。県からの再委託事業です。

☆個人住民税の扶養控除の廃止（専決処分）：0才～15才の一般扶養控除（33万円）、16才～19才の特定扶養控除（12万円）を廃止する。平成24年度より適用。子ども手当、高校無償化と重複する為廃止すること。朝鮮高校など授業料支援のない家庭にもひとしく、特別扶養控除を廃止することによる不公平さが問題としてのこります。

ふじしろ政夫の一般質問

☆ “住民投票条例”は 住民自治の一丁目一番地

隣の松戸市では、市立病院建設についての住民投票条例の直接請求が3万人近い市民の署名を集めて出されましたが、議会で否決され投票はおこなわれませんでした。(4/9)

1996年巻町の原因建設に係わる住民投票以来、各地の自治体では住民投票によって民意を集約しています。御嵩町の産業廃棄物処理施設建設問題、名護市の基地建設、岩国市 米軍再編問題、徳島市 吉野川可動堰の建設問題そして、平成の大合併における合併の可否を問う住民投票がおこなわれてきました。市民自治を実現する為にも鎌ヶ谷市にも常設型の住民投票制度をつくる必要があると質問しました。



自分達の地域のことは地域が決める

総務部長：「自分達の地域のことは、地域で考え、地域で決める」という自からの意思と責任に基づいて自己決定することが求められています。これを具体化するものが、憲法92条「地方自治の本旨」における“市民自治”です。

市民参加は市民の権利

総務部長：主権者たる住民が、市政に関与できることを保障する必要がある為、市民参加を市民の権利としてとらえることができる。

住民投票は議会の議決権と抵触しない

ふじしろ市議：住民投票は議会軽視だと批判する人がいますが、住民投票条例の投票結果は“尊重義務”であり、国の法律で定められたケースのみ法的拘束力がある。法体系的には整備されており議会のもつ議決権とは何ら抵触しないですね？

総務部長：そのとおりです。

住民の市政参加の為に必要です

総務部長：住民投票制度は、住民の市政参加を促進し、より安定性の高い政策の決定や実施につなげていくことができるものとしてその必要性を認識している。

常設型の住民投票条例の必要性

ふじしろ市議：市民から1/10～1/3の署名があれば、住民投票を実施しなければならないと定める常設型条例が必要ですね？

総務部長：住民投票をしたい時1/3～1/10の署名で投票でき、直接市政に参加する意味は大きいです。

制定への課題を検討し……条例は必要です。

市長：投票資格者について永住外国人などの課題もありますが、より高い市民自治を築くには住民投票制度は必

要であり、課題を検討していきます。

☆ 県事業大柏川第二調節池 —生態系ネットワークの要に—

「ほたるの里」のとなりに19hの大柏川第二調節池がつくられます。

総事業費100億円、平成26年度完成予定。計画場所には希少種のニホンアカガエル、ミドリシジミが生息しており、湧水が多く、大きなハンノキ林もある、生物多様性、生態系ネットワークとして重要な地域です。

調節池という県事業にどう市が、市民がかかわっていくのか質問しました。

質問への答弁は「県と協議します」「要請・要望します」「伺っています」という形でしかなく、最終的な解答が最後まで出てきませんでした。

県事業ですが、この計画の77%の面積は鎌ヶ谷市です。もっと県政の情報も鎌ヶ谷市民に入ってくる仕組みが必要です。もっと県議会の議論が市民のものになる必要を感じました。県政を市民の手に！

用地取得59%

土木部長：用地取得率は59%。現在水抜きをして土地の圧縮性を調査していると伺っております。

総事業費100億円は千葉県負担

土木部長：用地取得や池本体の工事費として100億円と伺っております。県の負担で鎌ヶ谷市の費用負担はありません。

多自然型の調節池

土木部長：千葉県からは「当該調節池は、豊かな自然に恵れ、具体的設計は今後の検討になるが、自然環境や親水性に配慮したものになる」と聞いています。

市も県に要望していきます

土木部長：鎌ヶ谷市は、この地域を水の生き物軸として設定しておりますので、多様な生き物の生息空間となるみどりの保全・創出をめざしています。この点を配慮していただくよう県に働きかけていきます。

上面の利用に要する費用はどこが負担？

土木部長：調節池以外の施設については、地元市負担があると聞き及んでいます。しかし池上面の利用形態も決まっていけないので、費用負担についても今後県や関係市と調整していくこととなります。



豊かな生態系ネットワークの調節池へ

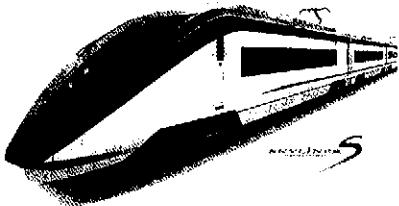
ふじしろ市議：豊かな生物多様性の地に調節池をつくるのですから、県も上面利用を含めて費用負担すべきです。十分県との連絡会議で要請して下さい。

市民の意見を聞く協働の場を

土木部長：調節池や上面利用の仕方など、真間川流域において、市民協働の実績があります。大柏川第一調節池や国分川調節池の事例を参考にしながら市民との協働により検討会を組織して合意形成を図っていきます。

北総鉄道・成田空港線

運賃問題…訴訟へ！



7月17日成田から上野の間時速160kmの新型スカイライナーが開通。高砂～空港間51.4kmを36分、950円。やっと国の空

港政策である成田空港へのアクセスの課題が少し解決できたかな～。

しかしこの成田空港線すごく変なのです。高砂から日医大までの33kmの北総線の運賃はなぜか高いまま820円。日常の生活線として使う人には高～い運賃、空港～都心間の人には低い運賃、まさに使う人によって運賃が違う二重運賃は許せない、と北総線を使っている住民が国を相手どって訴訟をしようと動き始めました。

訴訟内容は

- ①2/19認可された成田空港線の運賃認可の取消し
- ②同日認可された線路使用料認可の取消し
- ③北総鉄道の運賃を値下げするよう国に命ずる義務付訴訟の予定です。

高砂から新鎌ヶ谷の間、まさに成田空港線が都心につながる為に必要な部分＝北総鉄道の建設費用1200億円は北総の利用者住民に負担してもらいま7/17の開通を迎えるのです。成田空港線が払う北総への線路使用料はなぜか“タダ同然” どうしてだろう？

こんな枠組に協力する為、沿線6市2村は県の主導の下4.9%値下げの補助金支払（3億円）の合意をむりやりさせられました。

先般ちば県庁幹部の天下り先資料が入ってきました。

千葉県企業庁長 山本修平氏

4/1より北総鉄道（株）顧問

東葛飾県民センター所長 近藤勝氏

成田高速鉄道アクセス（株）総務部長

県政を市民の手にとりもどしましょう！

議会への主な陳情の結果

- 永住外国人への地方参政権付与の法制化に反対する意見書の提出する陳情→「継続審議」
- 選択的夫婦別姓制度の法制化に反対する意見書の提出する陳情→不採択
- 子ども手当の廃止を求める意見書の提出する陳情→不採択

永住外国人への地方参政権付与は、平成7年最高裁が判決理由の中で、「法律をもって地方公共団体の長、その議会の議員等に対する選挙権を付与する措置を講ずることは憲法上禁止されているものではない」と判断した以降、全国の自治体で付与が検討され始めました。鎌ヶ谷市議会も平成8年参政権に関する意見書を出しております。各地の住民投票条例200程の中に、すでに外国人の投票等が認められているのが現状です。特別永住42万人、一般永住外国人49万人への一日も早い地方参政権への付与の法制化が求められます。

“水俣病”から社会を見る

水俣病認定の第2回目の政治的解決がされようとしている“水俣病”。高齢になった方々の救済という面ではよろこばしいことだが、根本的な水俣病調査が一度もおこなわれていないこと、チッソの分社化という責任のあり様など問題は残ったまま……。記念講演会「水俣病・逆照射されるわたしたち」が催されました。



水俣病記念講演会のポスターから

落合恵子さんの司会で、当事者の緒方正実さん、元水俣市長 吉井正澄さん、経済評論家 内橋克人さん、作家の池澤夏樹さんから、それぞれの立場からの水俣への思いが語られました。緒方さんからは、40年間「私は水俣病患者です」と言えなかった自分史と、患者への差別・偏見との闘いが語られました。福松じいさんの水俣病での死、妹ひとみさんの胎児性水俣病という中で「あなたは水俣病と認定されません」と言っている行政への闘いの中で、現在の自分があると静かな口調で話しました。

内橋さんは、水俣病だけでなく、フロン、アスベスト、四日市喘息の事例をあげ、「苦しんでいる人をおいつめる日本の社会構造はまったく変わっていない」「いつも被害者に、その因果関係を証明させてきた（立証責任は被害者に）社会」と批判し、「なぜこんな社会になってしまったのか？ 歴史からなぜ学ばないのか？ 学べないのか？ 学ばせないのか？」と社会のあり様について問題提起しました。

そして「今こそ、“水俣”から学び、新しい未来をつくる、新しい基幹産業＝生存条件をよくする生産の社会をつくっていく必要がある」とこれからの方向性を示しました。

吉井元水俣市長は、チッソ、市民、行政がおかした罪を、「高度成長という国策」「人命軽視の対応」「中央の地方蔑視」の視点から指摘しました。

ネコ実験をひたかくしにし、知りながら排水を流しつづけ、患者を拡大させてしまった。国もチッソ城下町の市民も患者に敵対し、企業を守った。とその罪を語りました。私達一人一人が自からへ問い返さなければと思われました。

湊町暮らし 三番瀬の役割



千葉県の「三番瀬のシンボルマーク」です

大野 一敏 (船橋市漁業組合長)
堂本前知事が「三番瀬」の埋め立て計画の白紙撤回を行って早9年が過ぎた。その間、「三番瀬」の「保全と再生」計画が円卓会議によって諮問された。

気になることがある。「埋め立て計画」の白紙撤回は法的拘束力はなく、知事が変わり、また「埋め立て計画」が生き返るかもしれない。「三番瀬の保全再生」条例の制定が困難ならば、せめて「ラムサール条約」の登録を。これもいまだに定まらない。大きな理由は「漁師の反対」だ。

そこで船橋市漁業組合では、「ラムサール条約」とは何かを勉強し、その後臨時総会において「ラムサール条約」登録が、大都市の真ただ中に存在する漁場の維持に有効であると判断し賛成多数で登録することが可決された。

しかし、「三番瀬」を漁場とする「行徳漁協」ど「南行徳漁協」の2漁協は時期尚早と消極的だ。

なぜ今「ラムサール」か。「地球資源」の枯渇が心配される時、人が自然環境の価値を再認識し、それを愛でる方向に比重を移すとすれば「ラムサール」という「錦の旗印」も悪くない。人の尊厳を刺激し、街づくりの原動力にもなるかも知れない。

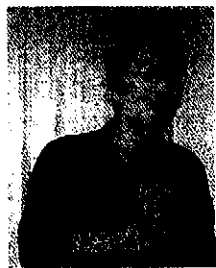
今、方向が定まらない時代に富の争奪戦で明け暮れしているのは人心が荒むばかりだ。健康は気から、気持ちのいい生活空間の創出が必要な時代となった。「三番瀬」の存在は食料の自給は勿論、人々に生気を与える空間になるはずだ。

どこまでできたか？ 貧困対策

「貧乏プラス孤立である貧困を正面からとりくんでいくのが政権の最大の課題です」(湯浅誠)この視点からこれまでどこまで貧困対策ができたのか？ 議論されました。

宇都宮弁護士は、派遣村によって貧困の問題が「可視化された」こと、そして'09.10月全国の相対的貧困率が調査され発表された(全国15.7% 一人親家庭54.3% 子供14.2%)のは「不都合な事実」を認めるに至ったと評価しました。

しかし、2010年4月、5.1%の完全失業率、350万人の人々が職がなく苦しんでいること。貧困率の削減目標も出されていない現状への課題も指摘されました。反貧困ネットワークからは、今後の課題①貧困率の削減目標を明らかにすること ②目標達成の為に対策本部を設置すること ③貧困削減一括法を制定することが提起されました。



市民のこえ

森田知事を検証する

森田知事になって一年。千葉県は少しでも良くなったでしょうか。千葉県長期総合計画【輝け！千葉元気プラン】が出され、特に教育については「千葉県を元気にする有識者会議」が設置されました。総合計画の中で教育は、「郷土や国土を愛する心」を育てる、「道徳性」を高める、「親学」の導入などがうたわれています。郷土や国を愛する心は学校で強制的に学ぶものでしょうか。大人、特に政治に関わる人たちが、今の現状を振り返って見ることから始めるべきではないでしょうか。また「親学」で親に何を学べというのでしょうか。昔、西の愛知、東の千葉といわれた管理教育が思い出されます。

堂本知事の時代にやっと県民の目線近くに降りてきたかに見えた県政も、森田知事に代わり、情報公開がされなくなり、また県民からは遠いものになってしまいそうです。

戸部 光枝



5/28 日米共同声明

は沖縄・辺野古への差別としわよせ。従属的日米関係への回帰。鳩山首相の首とひきかえに、政権交代にこめた県民、国民の民意への裏切り。

お知らせ

ふじしろ政実と市政・県政を語る

Ⅰ 「ちば県政の現状と問題点」

千葉県議会議員
大野ひろみ(市民ネット)
川本 幸立(市民ネット) 予定
ふじしろ政実主催

Ⅱ 鎌ヶ谷市議会・6月議会報告・市政報告

7月25日(日) 13:30～ まなび(無料)

☆新鎌ヶ谷えきフェスタ

成田スカイアクセス一般特級停車記念

7/17(土) 10:00～15:00

新鎌ヶ谷南口交通広場

ミニコンサート、ミニSL、農産物販売etc

☆ヒロシマ・ナガサキ非核平和祈念…黙祷・献花を

8/6(金) 8時～ 総合福祉保健センター前
“広島の被爆敷石”

8/9(月) 10時45分～ 市役所玄関前
“かたぐるま”

☆津久井市政報告会

7/18(日) 13:30～ まなびいプラザ

☆平和イベント 今改めて平和を考えよう

7/23・24・25 中央公民館

下総基地、中国毒ガス問題など

□法律弁護士無料相談 要予約 ふじしろ市議まで

7/17 13:00～

□音楽会 毎週金曜日 13:00～ トライ事務所